

平成19年度春夏作芝関係 除草剤・生育調節剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会

平成19年度春夏作芝関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、平成19年11月28日(水)に東京ガーデンパレスにおいて開催された。

この検討会には、試験場関係者12名、委託関係者51名ほか、計75名の参集を得て、除草剤30薬剤(202点)、生

育調節剤3薬剤(14点)について、試験成績の報告と検討が行われた。

その判定結果および使用基準については、次の判定表に示す通りである。

平成19年度 春夏作芝関係除草剤・生育調節剤試験供試薬剤および判定一覧

A. 除草剤

薬剤名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種類 新・継 の別	試験担当場所 (数)	試験設計 [対象雑草; ねらい] ・処理時期 ・薬量g・mL<水量mL>/m ² ・処理方法	判定	判定内容
1. AKD-7175粒 DBN 1.2% ジナジン 3% [アール・カネヨウ]	コウライシ ハ	適用性 新規	東雲GC 関西G研 門司GC (3)	[一年生雑草及び多年生広葉雑 草、シナ]・ ・芝生育期 雑草発生前 ・8, 10, 12g ・土壌処理		継) 効果、薬害の確認
	コウライシ ハ	適用性 新規	東雲GC 関西G研 門司GC (3)	[一年生雑草及び多年生広葉雑 草、シナ]・ ・芝生育期 雑草発初期 ・8, 10, 12g ・土壌処理		
2. B-3015乳90 ベンチホ-ブ 90% [クミアイ化学工業、理研 グループ]	コウライシ ハ	適用性 継続	東日本G研 鳥取園試 西日本G研 (3)	[一年生イネ科雑草] ・芝生育期 雑草発生前 ・0.4, 0.6, 0.8mL<200-300> ・土壌処理 ・対) オレロ90乳剤 0.6mL <200-300>	実・ 継	実) [春夏作; (コウライシ) 一年生イ ネ科雑草] ・芝生育期、雑草発生前 ・0.4~0.8mL<200-300mL>/m ² ・土壌処理 継) ・倍量薬害試験での確認 (コウライシ) ・芝はぎ取り後処理での効果、薬害 の確認(コウライシ)
3. BEH-447プロアブル 新規化合物 2.3% [ハインクロップサイエ ンス]	コウライシ ハ	作用性 新規	関西G研 (1)	[一年生雑草及び多年生広葉雑 草] ・芝生育期 雑草生育期 (イ ネ科5-6葉期) ・0.075, 0.15, 0.2, 0.25mL <100-150> ・茎葉処理 ・対) アーランド液剤 1mL <100-150>	継	継) 効果、薬害の確認

A. 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%)	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量 g・mL<水量mL>/㎡ ・ 処理方法	判 定	判定内容
BEH-447707アール [委託者]	ノシバ	作用性 新規	東日本G研 (1)	[一年生雑草及び多年生広葉雑草] ・ 芝生育期 雑草生育期 (イネ科5-6葉期) ・ 0.075, 0.15, 0.2, 0.25mL<100-150> ・ 茎葉処理 ・ 対) アーゼラン液剤 1mL<100-150>		
	コウライシバ	適用性 新規	植調埼玉 リバ-富士CC 新中国G研 西日本G研 (4)	[一年生雑草及び多年生広葉雑草] ・ 芝生育期 雑草生育期 (イネ科5-6葉期) ・ 0.15, 0.2, 0.25mL<100-150> ・ 茎葉処理 対) アーゼラン液剤 1mL<100-150>		
	ノシバ	適用性 新規	植調埼玉 リバ-富士CC 新中国G研 西日本G研 (4)	[一年生雑草及び多年生広葉雑草] ・ 芝生育期 雑草生育期 (イネ科5-6葉期) ・ 0.15, 0.2, 0.25mL<100-150> ・ 茎葉処理 ・ 対) アーゼラン液剤 1mL<100-150>		
4. BEH-507707アール 新規化合物 20% [ハ'イール クロップ サイエンス]	コウライシバ	作用性 新規	東日本G研 (1)	[一年生雑草] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 0.15, 0.02, 0.025, 0.03mL<200-300> ・ 土壌処理 ・ 対) イグトップ フロアアール 0.08mL<200-300>	継	継) 効果、薬害の確認
	ノシバ	作用性 新規	関西G研 (1)	[一年生雑草] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 0.15, 0.02, 0.025, 0.03mL<200-300> ・ 土壌処理 ・ 対) イグトップ フロアアール 0.08mL<200-300>		
	コウライシバ	適用性 新規	東日本G研 植調埼玉 新中国G研 西日本G研 (4)	[一年生雑草] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 0.02, 0.025, 0.03mL<200-300> ・ 土壌処理 ・ 対) イグトップ フロアアール 0.08mL<200-300>		
	ノシバ	適用性 新規	東日本G研 植調埼玉 新中国G研 西日本G研 (4)	[一年生雑草] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 0.02, 0.025, 0.03mL<200-300> ・ 土壌処理 ・ 対) イグトップ フロアアール 0.08mL<200-300>		

A. 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量g・mL<水量mL>/m ² ・ 処理方法	判 定	判定内容
5. BES-002707アブル オキサジクロネン 15%、 オキサジアルギル 17% [ハ ⁺ イエル クロップ ⁺ サイエ ス]	コウライシ ハ ⁺	適用性 継続	東日本G研 西日本G研 (2)	[高薬量(0.2mL/m ²)の薬害] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 0.1, 0.15, 0.2mL<200-300> ・ 土壌処理 ・ 対) ウェイファ ⁺ フロア ⁺ 0.5g <200-300>	実 ・ 継	実) 従来どおり [春夏作; (コウライシハ ⁺ , ノシハ ⁺) 一年生 雑草] ・ 芝生育期、雑草発生前 ・ 0.1~0.2mL<200~300mL>/m ² ・ 土壌処理
	ノシハ ⁺	適用性 継続	東日本G研 西日本G研 (2)	[高薬量(0.2mL/m ²)の薬害] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 0.1, 0.15, 0.2mL <200-300> ・ 土壌処理 ・ 対) ウェイファ ⁺ フロア ⁺ 0.5g <200-300>		継) ・ 倍量薬害試験での確認 (コウライシハ ⁺ , ノシハ ⁺) ・ 連用試験での確認 (コウライシハ ⁺ , ノシハ ⁺) ・ 実証試験での確認 (コウライシハ ⁺ , ノシハ ⁺)
6. BES-003顆粒水和 ヨードスルホンメチルナトリウム 塩 2%、 オキサジクロネン 30% [ハ ⁺ イエル クロップ ⁺ サイエ ス]	コウライシ ハ ⁺	作用性 継続 (春夏 作とし ては新 規)	西日本G研 (1)	[倍量薬害] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 0.15g<200> 0.3g<400> 0.6g<800> ・ 土壌処理	実 ・ 継	実) [春夏作; (コウライシハ ⁺ , ノシハ ⁺) 一年 生雑草及び多年生広葉雑草] ・ 芝生育期、雑草発生前 ・ 0.075~0.1g<200-300mL>/m ² ・ 土壌処理
	ノシハ ⁺	作用性 継続 (春夏 作とし ては新 規)	西日本G研 (1)	[倍量薬害] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 0.15g<200> 0.3g<400> 0.6g<800> ・ 土壌処理		継) ・ 0.15gでの効果、薬害の確認 (コウライシハ ⁺ , ノシハ ⁺) ・ 効果、薬害について年次変動の 確認(コウライシハ ⁺ , ノシハ ⁺) ・ 倍量薬害試験での年次変動の確 認(コウライシハ ⁺ , ノシハ ⁺) ・ 連用試験での確認 (コウライシハ ⁺ , ノシハ ⁺) ・ 実証試験での確認 (コウライシハ ⁺ , ノシハ ⁺)
	コウライシ ハ ⁺	適用性 継続 (春夏 作とし ては新 規)	東日本G研 那須ナセリー 埼玉サジ ⁺ AM2002 浜松サジ ⁺ GC 関西G研 花屋敷GC 新中国G研 西日本G研 (8)	[一年生雑草及び多年生広葉雑 草] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 0.075, 0.1, 0.15g<200-300> ・ 土壌処理 ・ 対) イン ⁺ ー ⁺ DF 0.03g<200-300>		
	ノシハ ⁺	適用性 継続 (春夏 作とし ては新 規)	東日本G研 那須ナセリー 南長野GC 浜松サジ ⁺ GC 関西G研 花屋敷GC 新中国G研 西日本G研 (8)	[一年生雑草及び多年生広葉雑 草] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 0.075, 0.1, 0.15g<200-300> ・ 土壌処理 ・ 対) イン ⁺ ー ⁺ DF 0.03g<200-300>		

A. 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量g・mL<水量mL>/m ² ・ 処理方法	判 定	判定内容
7. BES-0449顆粒水和 グロビネ 70% [ハ イェル クロップ サイエ ンス]	ベントグ ラス	作用性 継続	東日本G研 新中国G研 (2)	[倍量薬害] ・ 藻類発生始期 ・ 3g<500> ・ 6g<1000> ・ 12g<2000> ・ 土壌処理	実 ・ 継	実) [ベントグラス] 藻類 ・ 芝生育期 藻類発生始期 2回以内 2~3g<500mL>/m ² ・ 茎葉処理 (継) ・ 連用試験での確認(ベントグラス) ・ 実証試験での確認(ベントグラス)
	ベントグ ラス	適用性 継続	東日本G研 植調埼玉 関西G研 新中国G研 西日本G研 (5)	[藻類] ・ 藻類発生始期(1回処理) 2, 3g<500> ・ 藻類発生始期(1回目)→再生直 後(2回目) 2g<500>→2g<500> 3g<500>→3g<500> ・ 茎葉処理 ・ 対) グロレット水和剤 3g<1000>		
8. DAH-0565水和 既知化合物A 1% 既知化合物B 50% [タウケミカ日本]	ベントグ ラス	作用性 新規	東日本G研 西日本G研 (2)	[藻類] ・ 藻類発生始期 ・ 1, 2.5, 2, 3, 4, 5g<500ml> ・ 茎葉処理	継	(継) 効果、薬害の確認
	ベントグ ラス	適用性 新規	太平洋C美野里C 関西G研 新中国G研 (3)	[藻類] ・ 藻類発生始期(1回処理) 2, 3g<500> ・ 藻類発生始期(1回目)→再生始 期(2回目) 2g<500>→2g<500> 3g<500>→3g<500> ・ 茎葉処理		
9. DH-023顆粒水和 ベントレート 30% [日本曹達]	ベントグ ラス	適用性 継続	グランドイ那須GC36 東日本G研 新中国G研 西日本G研 (4)	[一年生イネ科雑草(メシバ 主体)] ・ 一年生イネ科雑草発生初期 (メシバ) ・ 0.15, 0.2, 0.3g<100~200> ・ 茎葉処理	実 ・ 継	実) [春夏作; (ベントグラス, ケンタッキー ブルー) ス'メカビ'] ・ 芝生育期、 雑草発生初期(3葉期まで) 0.2~0.3g<100~200mL>/m ² ・ 茎葉処理 (注) ・ ベントグラスの活性が低い場合に は、薬害を生じることがある [春夏作; (ベントグラス) メシバ] ・ 芝生育期、 雑草発生初期(3葉期まで) 0.15~0.3g<100~200mL>/m ² ・ 茎葉処理 (注) ・ ベントグラスの活性が低い場合に は、薬害を生じることがある ・ メシバには効果が劣る (継) ・ 低薬量のス'メカビ'に対する効 果の確認(ベントグラス) ・ 倍量薬害試験での確認 (ベントグラス, ケンタッキー ブルー) ・ 連用試験での確認 (ベントグラス, ケンタッキー ブルー) ・ 実証試験での確認 (ベントグラス, ケンタッキー ブルー)

A. 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%)	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草:ねらい] ・処理時期 ・薬量g・mL<水量mL>/m ² ・処理方法	判 定	判定内容
10. DPX-F6025 顆粒水和 クロリムロニフル 25% [丸和ハ ^イ イオミカル、デ ^ュ ボ ^ン]	コウライシ ハ ^イ	適用性 継続	東日本G研 新中国G研 西日本G研 (3)	[広葉雑草] ・芝生育期 雑草発生前 ・0.02, 0.03, 0.04g<200> ・茎葉兼土壌処理 ・対)イン ^テ ー ^ル DF 0.03g<200>	実 ・ 継	実) [春夏作: (コウライシハ ^イ 、ノシハ ^イ) 広葉雑草] ・芝生育期、 雑草発生前～生育期 0.02～0.04g<200mL>/m ² 茎葉処理 [春夏作: (コウライシハ ^イ 、ノシハ ^イ) ヒメグサ、ハマスグサ] ・芝生育期、 雑草発生前～発生前初期 ・0.01～0.015g <150～200mL>/m ² ・茎葉処理
	ノシハ ^イ	適用性 継続	泉ハ ^イ ータウンGC 東雲GC 植調埼玉 (3)	[広葉雑草] ・芝生育期 雑草発生前 ・0.02, 0.03, 0.04g<200> ・茎葉兼土壌処理 ・対)イン ^テ ー ^ル DF 0.03g		継) ・広葉雑草発生前の効果、薬害について、年次変動の確認 (コウライシハ ^イ 、ノシハ ^イ) ・広葉雑草生育期の効果、薬害について、年次変動の確認 (コウライシハ ^イ 、ノシハ ^イ) ・倍量薬害試験での確認 (コウライシハ ^イ 、ノシハ ^イ) ・連用薬害試験での確認 (コウライシハ ^イ 、ノシハ ^イ) ・実証試験での確認 (コウライシハ ^イ 、ノシハ ^イ)
	ノシハ ^イ	適用性 継続	泉ハ ^イ ータウンGC 東雲GC 植調埼玉 (3)	[広葉雑草] ・芝生育期 雑草生育期 ・0.02, 0.03, 0.04g<200> ・茎葉兼土壌処理 ・対)イン ^テ ー ^ル DF 0.03g<200>		
11. FUIN-2 微粒剤 ダ ^グ ラ ^ス ネット 98% [ア ^ク カネショウ]	ケンタッキー ブ ^ル ー ^グ ラ ^ス	適用性 継続	新中国G研 (1)	[一年生雑草] ・芝播種または植付け3週間前 ・30kg/10a ・土壌混和 (全面散布→土壌混和→ビ ^ニ ール被覆あるいは鎮圧→7～14日間放置→ガス抜き (2回以上耕起)→芝播種または植付け	実 ・ 継	実) 従来どおり [春夏作: (コウライシハ ^イ 、ノシハ ^イ) 一年生雑草] ・植付3週間前まで ・30g/m ² ・土壌混和処理 (土壌に本剤の所定量を加え十分混和した後ビ ^ニ ール等での被覆または鎮圧する。7～14日後被覆を除去して耕起によるガス抜きを行う。) [春夏作: (ベントグ ^ラ ス) 一年生雑草] ・播種3週間前まで ・30g/m ² ・土壌混和処理 (土壌に本剤の所定量を加え十分混和した後ビ ^ニ ール等での被覆または鎮圧する。7～14日後被覆を除去して耕起によるガス抜きを行う。) 継) ・効果、薬害の確認 (ケンタッキーブ ^ル ー ^グ ラ ^ス) ・倍量薬害試験での確認 (コウライシハ ^イ 、ノシハ ^イ 、ベントグ ^ラ ス、ケンタッキーブ ^ル ー ^グ ラ ^ス) ・実証試験での確認 (コウライシハ ^イ 、ノシハ ^イ 、ベントグ ^ラ ス)

A. 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%)	作 物 名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草:ねらい] ・処理時期 ・薬量g・mL<水量mL>/m ² ・処理方法	判 定	判定内容
12. GG-180粒 シアジン 1%, DBN 0.5%	コウライシ バ	作用性 新規	東日本G研 西日本G研 (2)	[萌芽期薬害] ・芝生育期 雑草発生前 ・20, 30, 40g ・土壌処理	実 ・ 継	実) [春夏作; (コウライシバ) 一年生雑 草] ・芝生育期、 雑草発生前～初期 ・20～40g/m ² ・土壌処理 注) ・高温期での処理は芝に薬害を生 じることがある
[日本ケ「リンアント」カー デン]	コウライシ バ	作用性 新規	東日本G研 西日本G研 (2)	[高温期薬害] ・芝生育期 雑草発生前 ・40, 80g ・土壌処理		継) ・倍量薬害試験での確認 (コウライシバ) ・連用試験での確認(コウライシバ) ・実証試験での確認(コウライシバ)
	コウライシ バ	適用性 継続	東日本G研 新中国G研 西日本G研 (3)	[一年生雑草] ・芝生育期 雑草発生前 ・20, 30, 40g ・土壌処理 ・対)ベンボ-ル粒剤 15g		
	コウライシ バ	適用性 継続	東日本G研 新中国G研 西日本G研 (3)	[一年生雑草] ・芝生育期 雑草発生前 ・20, 30, 40g ・土壌処理 ・対)ベンボ-ル粒剤 15g		
13. GG-181粒 シアジン 1%, DBN 0.5%, N:P:K:Mg=11:8:7:3	コウライシ バ	作用性 新規	東日本G研 西日本G研 (2)	[萌芽期薬害] ・芝生育期 雑草発生前 ・20, 30, 40g ・土壌処理	実 ・ 継	実) [春夏作; (コウライシバ) 一年生雑 草] ・芝生育期、 雑草発生前～初期 ・20～40g/m ² ・土壌処理
[日本ケ「リンアント」カー デン]	コウライシ バ	作用性 新規	東日本G研 西日本G研 (2)	[高温期薬害] ・芝生育期 雑草発生前 ・40, 80g ・土壌処理		継) ・倍量薬害試験での確認 (コウライシバ) ・連用試験での確認(コウライシバ) ・実証試験での確認(コウライシバ)
	コウライシ バ	適用性 継続	東日本G研 新中国G研 西日本G研 (3)	[一年生雑草] ・芝生育期 雑草発生前 ・20, 30, 40g ・土壌処理 ・対)テマックス粒剤 30g		
	コウライシ バ	適用性 継続	東日本G研 新中国G研 西日本G研 (3)	[一年生雑草] ・芝生育期 雑草発生前 ・20, 30, 40g ・土壌処理		
14. GG-182粒 シアジン 1%, メコフロップ Pカリウム塩1%	コウライシ バ	作用性 新規	東日本G研 西日本G研 (2)	[萌芽期薬害] ・芝生育期 雑草発生前 ・20, 30, 40g ・土壌処理	実 ・ 継	実) [春夏作; (コウライシバ) 一年生雑 草] ・芝生育期、 雑草発生前～初期 ・20～40g/m ² ・土壌処理 注) ・高温期での処理は芝に薬害を生 じることがある
[日本ケ「リンアント」カー デン]	コウライシ バ	作用性 新規	東日本G研 西日本G研 (2)	[高温期薬害] ・芝生育期 雑草発生前 ・40, 80g ・土壌処理		継) ・倍量薬害試験での確認 (コウライシバ) ・連用試験での確認(コウライシバ) ・実証試験での確認(コウライシバ)
	コウライシ バ	適用性 継続	東日本G研 新中国G研 西日本G研 (3)	[一年生雑草] ・芝生育期 雑草発生前 ・20, 30, 40g ・土壌処理 ・対)ベンボ-ル粒剤 15g		
GG-182粒	コウライシ バ	適用性 継続	東日本G研 新中国G研 西日本G研 (3)	[一年生雑草] ・芝生育期 雑草発生前 ・20, 30, 40g ・土壌処理 ・対)ベンボ-ル粒剤 15g		

A. 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%)	作物名	試験の 種 類 新・維 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草;ねらい] ・処理時期 ・薬量g・mL<水量mL>/㎡ ・処理方法	判 定	判定内容
15. GG-191粒 既知化合物 0.1%, 既 知化合物 0.5%, N:P:K:Mg=11:8:7:3 [日本ケルシンアント・ガー デン]	コウライシ ハ	適用性 新規	東日本G研 太平洋C美野里C 新中国G研 西日本G研 (4)	[一年生雑草] ・芝生育期 雑草発生前 ・20, 30, 40g ・土壌処理 ・対) マナックス粒剤 30g	継	継) 効果、葉害の確認
	コウライシ ハ	適用性 新規	東日本G研 太平洋C美野里C 新中国G研 西日本G研 (4)	[一年生雑草] ・芝生育期 雑草発生前 ・20, 30, 40g ・土壌処理 ・対) ベンボル粒剤 15g		
16. KUH-079顆粒水和 新規化合物 50% [クミヤ化学工業、理研 グリーン]	コウライシ ハ	作用性 新規	東日本G研 西日本G研 (2)	[一年生イネ科雑草及び広葉雑草] ・芝生育期 雑草発生前 ・0.02, 0.04, 0.06g<100-200> ・茎葉処理	継	継) 効果、葉害の確認
	コウライシ ハ	適用性 新規	東日本G研 西日本G研 (2)	[広葉雑草] ・芝生育期 雑草発生前 ・0.02, 0.03, 0.04g<100-200> ・茎葉処理 ・対) グロートスマッシュSC 0.03mL <150-200>		
17. NC-340顆粒水和 ハロメロンメチル 12%, プロジアミン 40% [日産化学工業]	ケンタッキー ブルーグ ラス	適用性 新規	泉パークタウンGC グランディ那須GC36 那須ナセー (3)	[一年生雑草] ・芝生育期 雑草発生前 ・0.15, 0.2, 0.3g<200-300> ・土壌処理	実 ・ 継	実) 従来どおり [春夏作; (コウライシハ、ノシハ) 一年生雑 草] ・芝生育期、 ・イネ科雑草発生前 ・0.2~0.3g<200~300mL>/㎡ ・土壌処理 継) ・効果、葉害の確認 (コウライシハ、ノシハ) ・効果、葉害について年次変動の確認 (ケンタッキーブルーグラス)
18. NC-622液 グリサートカリウム塩 48% [日産化学工業]	ノシハ	適用性 新規	植調研究所 佐野GC 南長野GC 新中国G研 (4)	[雑草全般] ・芝生育期 雑草生育期 (草丈15-30cm) ・2.5, 5, 10倍希釈 ・茎葉塗布処理	継	継) 効果、葉害の確認
19. NFK-062水和 8-ヒドロキシノリネン銅 80% [日本農業]	ベントグ ラス	適用性 継続	東日本G研 関西G研 新中国G研 西日本G研 (4)	[コノ類] ・芝生育期 コノ類発生期 ・2.5g<200-300>1回処理 ・2.5g<200-300>×2回処理 ・2.5g<200-300>×3回処理 ・茎葉処理 ・対) ドウクリン水和剤 2.5g <200-300>	実 ・ 継	実) [春夏作; (ベントグラス) コノ類] ・芝生育期、 コノ類発生期 ・2.5g<200-300mL>/㎡ 3回以内 ・土壌処理 継) ・倍量葉害試験での確認 (ベントグラス) ・連用試験での確認 (ベントグラス) ・実証試験での確認 (ベントグラス)

A. 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%)	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草:ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量g・mL<水量mL>/m ² ・ 処理方法	判 定	判定内容
20. NHK-06170アフル ビラフルフェニル 2% [日本農業]	ベントグ ラス	適用性 継続	東日本G研 (2) 関西G研 新中国G研 西日本G研 (5)	[コノ類] ・ 芝生育期 コノ類生育期 ・ 0.2, 0.4, 0.6mL<100-200> ・ 茎葉処理 ・ 対)タカDF 0.03g<100-200>	実 ・ 継	実) [春夏作; (ベントグラス) コノ類] ・ 芝生育期、 コノ類生育期 ・ 0.2~0.4mL<100-200mL>/m ² ・ 茎葉処理
	ベントグ ラス	適用性 (H18 自主)	東日本G研 (1)	[コノ類] ・ 芝生育期 コノ類生育期 ・ 0.2, 0.4mL<100-200> ・ 茎葉処理 ・ 対)タカDF 0.03g<100-200>		継) ・ 0.2mL, 0.4mLでの年次変動の確認 (ベントグラス) ・ 0.6mLでの効果、薬害の確認 (ベントグラス) ・ 倍量薬害試験での確認 (ベントグラス) ・ 連用試験での確認 (ベントグラス) ・ 実証試験での確認 (ベントグラス)
21. NOJ-120顆粒水和 トリフロキシメスフロキサリウム塩 72% [シンジエンタ ジャパン]	ハーフミュー ググラス	適用性 継続	新中国G研 西日本G研 (2)	[連用薬害] ・ H18春→H18秋→H19春→H19秋 ・ 芝生育期 雑草発生初期 (3葉期まで) ・ 0.006g<150-250> ・ 茎葉兼土壌処理	実 ・ 継	実) 従来どおり [春夏作; (ハーフミューググラス) 一年生雑 草] ・ 芝生育期 雑草発生初期～生育期 (5葉期まで) ・ 0.003~0.006g<150~250mL> ・ 茎葉兼土壌処理 [春夏作; (コライシバ、ノシバ) 一年生雑 草、ヒメカキ] ・ 芝生育期 雑草発生初期～生育期 (5葉期まで) ・ 0.003~0.006g<150~250mL> ・ 茎葉兼土壌処理 [春夏作; (コライシバ、ノシバ) スズメヒエ 類] ・ 芝生育期、雑草生育期 ・ 0.0045~0.006g<150~200mL> ・ 茎葉処理 [春夏作; (コライシバ、ノシバ) チガヤ] ・ 芝生育期、 雑草生育期 (出穂前) ・ 0.003~0.006g<150~250mL> ・ 茎葉処理 注) チガヤは生育を抑制される が、完全枯死には至らな い。 継) ・ 倍量薬害試験での確認 (ハーフミューググラス) ・ 連用薬害試験での確認 (ハーフミューググラス) ・ 実証試験での確認 (ハーフミューググラス) ・ スズメヒエ類に対する低薬量で の効果の確認 (コライシバ、ノシバ) ・ 倍量薬害試験での確認 (コライシバ、 ノシバ)

A. 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草:ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量g・mL<水量mL>/㎡ ・ 処理方法	判 定	判定内容
22. RGH-0601粒 ベンチメクリン 0.86% (N:P:K=25:5:10 (USA 表示)) [理研グリーン]	コウライシ バ	適用性 継続	佐野GC 関西G研 新中国G研 西日本G研 (4)	[一年生雑草(科除く)] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 20, 22.5, 25g ・ 土壌処理 ・ 対)テマックス粒剤 30g	実 ・ 継	実) [春夏作; (コウライシバ、ノシバ) 一年 生雑草(科除く)] ・ 芝生育期、 雑草発生前 ・ 20~25g ・ 土壌処理 継) ・ 効果、薬害の確認 (ケンタッキーブルーグラス) ・ 連用薬害試験での確認 (コウライシバ、ノシバ)
	ノシバ	適用性 継続	佐野GC 関西G研 新中国G研 西日本G研 (4)	[一年生雑草(科除く)] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 20, 22.5, 25g ・ 土壌処理 ・ 対)テマックス粒剤 30g		
	ケンタッキー ブルーグ ラス	適用性 新規	植調北海道 泉ハークタムGC グランディ那須GC36 (3)	[一年生雑草(科除く)] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 10, 15, 20g ・ 土壌処理 ・ 対)テマックス粒剤 15g		
23. SAH-001乳 新規化合物 10% [丸和イオミカ、住商 アグロインターナショナル]	コウライシ バ	作用性 新規	植調研 西日本G研 (2)	[メシバ] ・ 芝生育期 雑草生育期 ・ 0.05, 0.1, 0.2, 0.4, 0.6mL <200> ・ 茎葉兼土壌処理	継	継) 効果、薬害の確認
	ノシバ	作用性 新規	新中国G研 (1)	[メシバ] ・ 芝生育期 雑草生育期 ・ 0.05, 0.1, 0.2, 0.4, 0.6mL <200> ・ 茎葉兼土壌処理		
	ハントク ラス	作用性 新規	東日本G研 西日本G研 (2)	[メシバ] ・ 芝生育期 雑草生育期 ・ 0.05, 0.1, 0.2, 0.4, 0.6mL <200> ・ 茎葉兼土壌処理		
	ケンタッキー ブルーグ ラス	作用性 新規	泉ハークタム (1)	[メシバ] ・ 芝生育期 雑草生育期 ・ 0.05, 0.1, 0.2, 0.4, 0.6mL <200> ・ 茎葉兼土壌処理		
	ライグラス	作用性 新規	泉ハークタム (1)	[メシバ] ・ 芝生育期 雑草生育期 ・ 0.05, 0.1, 0.2, 0.4, 0.6mL <200> ・ 茎葉兼土壌処理		
	コウライシ バ	適用性 新規	東雲GC 東日本G研 (2)	[メシバ] ・ 芝生育期 雑草生育期 ・ 0.1, 0.2, 0.3mL<200> ・ 茎葉兼土壌処理		
	ノシバ	適用性 新規	泉ハークタム 新中国G研 (2)	[メシバ] ・ 芝生育期 雑草生育期 ・ 0.1, 0.2, 0.3mL<200> ・ 茎葉兼土壌処理		

A. 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%)	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草: ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量 g・mL<水量mL>/m ² ・ 処理方法	判 定	判定内容
24. SB-5521顆粒水和 ベンディメタリン 53% [エス・ディー・エス アイテック]	ハーフミュー ダグラス	適用性 新規	静岡G場協会 浜松シーサイドGC 花屋敷GC 新中国G研 西日本G研 (5)	[一年生雑草(科除く)] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 0.3, 0.45, 0.6g<200-300> ・ 茎葉処理 ・ 対) ユーアッププロアール 0.6g ・ <200-300>	実 ・ 継	実) 従来どおり ・ [春夏作: (コライシバ、ノシバ) 一年生雑草] ・ 芝生育期、雑草発生前 ・ 0.3~0.6g<200~300mL>/m ² ・ 土壌処理 継) 効果、葉害の確認 (ハーフミューダグラス)
25. SL-160顆粒水和 フラザスロン 25% [石原産業]	コライシ バ	適用性 継続	植調埼玉 新中国G研 (2)	[ハスグ]	実 ・ 継	実) ・ [春夏作: (コライシバ、ノシバ) 一年生雑草、多年生広葉雑草、ヒメグ]
	ノシバ	適用性 継続	植調埼玉 新中国G研 (2)	[ハスグ] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 0.02, 0.03, 0.04g<100-200> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤加用 ・ 対) シバゲン水和剤 0.05g ・ <150-200>		注) 展着剤を加用する [春夏作: (コライシバ、ノシバ) ハスグ] ・ 芝生育期、 雑草発生前 ・ 0.01~0.03g<100~200mL>/m ² ・ 茎葉処理
	コライシ バ	適用性 継続	佐野GC 花屋敷GC 門司GC (3)	[一年生雑草及び多年生広葉雑草、ヒメグ] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 0.01, 0.02, 0.03g<100-200> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤加用		注) 展着剤を加用する [春夏作: (ハーフミューダグラス) 一年生雑草、多年生広葉雑草] ・ 芝生育期、 雑草発生前 ・ 0.01~0.02g<100~200mL>/m ² ・ 茎葉処理
	ノシバ	適用性 継続	東雲GC 植調埼玉 門司GC (3)	[一年生雑草及び多年生広葉雑草、ヒメグ] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 0.01, 0.02, 0.03g<100-200> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤加用		注) 展着剤を加用する 継) ・ 年次変動の確認 (ハーフミューダグラス) ・ 0.03gでの効果、葉害の確認 (ハーフミューダグラス)
	ハーフミュー ダグラス	適用性 新規	埼玉サジヤマ2002 浜松シーサイドGC 関西G研 花屋敷GC 新中国G研 門司GC (6)	[一年生雑草及び多年生広葉雑草、ヒメグ] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 0.01, 0.02, 0.03g<100-200> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤加用 ・ 対) シバゲン水和剤 0.025g ・ <150-200>		・ ヒメグ、ハスグに対する効果の確認 (ハーフミューダグラス) ・ 倍量薬害試験での確認 (コライシバ、ノシバ、ハーフミューダグラス) ・ 連用薬害試験での確認 (コライシバ、ノシバ、ハーフミューダグラス) ・ 実証試験での確認 (コライシバ、ノシバ、ハーフミューダグラス)
	コライシ バ	実証 新規	関西G研 (1)	[実証試験] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 0.02g<100-200> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤加用		
	ノシバ	実証 新規	関西G研 (1)	[実証試験] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 0.02g<100-200> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤加用		

A. 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%)	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量 g・mL<水量 mL>/m ² ・ 処理方法	判 定	判定内容
26. SL-160水和 フラザルホン 10% [石原産業]	コウライシ バ	適用性 継続	関西G研 新中国G研 (2)	[スズメヒエ] ・ 芝生育期 雑草発生初期 (株径15cm以下) ・ 0.05, 0.075, 0.1g<150-200> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤加用 ・ 対) モニメント顆粒水和剤 0.0045g<150-200>	実 ・ 継	[春夏作; (コウライシバ、ノシバ) スズメヒエ] ・ 芝生育期 雑草生育期 (株径 15cm 以下) ・ 0.05~0.1g<150~200mL>/m ² ・ 茎葉処理 注) 展着剤を加用する
	ノシバ	適用性 継続	関西G研 新中国G研 (2)	[スズメヒエ] ・ 芝生育期 雑草発生初期 (株径15cm以下) ・ 0.05, 0.075, 0.1g<150-200> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤加用 ・ 対) モニメント顆粒水和剤 0.0045g<150-200>		[春夏作; (バーミューダグラス) 一年生 雑草, 多年生広葉雑草, ヒメグサ] ・ 芝生育期, 雑草発生初期 ・ 0.025~0.05g<150~200mL> /m ² ・ 茎葉処理 注) 展着剤を加用する (コウライシバ、ノシバ) の上記以外の判定 内容は従来通り) 継) ・ 一年生イネ科雑草に対する年次変 動の確認 (バーミューダグラス) ・ スズメヒエに対する効果の年次変動 の確認 (コウライシバ、ノシバ)
27. SYJ-19470アブ プロシアミン 40% [シジエンタ ジャパン]	コウライシ バ	適用性 継続	東日本G研 新中国G研 (2)	[一年生雑草 (イネ科除く)] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 0.125, 0.19, 0.25g<200-300> ・ 土壌処理 ・ 対) カサブ ロック水和剤 0.12g <200-300>	実 ・ 継	実) [春夏作; (コウライシバ、ノシバ) 一年 生雑草 (イネ科除く)] ・ 芝生育期, 雑草発生前 ・ 0.125~0.25g<200-300mL>/m ² ・ 土壌処理
	ノシバ	適用性 継続	東日本G研 新中国G研 (2)	[一年生雑草 (イネ科除く)] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 0.125, 0.19, 0.25g<200-300> ・ 土壌処理 ・ 対) カサブ ロック水和剤 0.12g <200-300>		継) ・ 倍量薬害試験での確認 (コウライシバ、ノシバ) ・ 連用薬害試験での確認 (コウライシバ、ノシバ) ・ 実証試験での確認 (コウライシバ、ノシバ)
28. SYJ-214水和 既知化合物 50% [シジエンタ ジャパン]	ベントク ラス	作用性 新規	東日本G研 新中国G研 (2)	[藻類] ・ 芝生育期 藻類発生期 ・ 0.2g<500>, 0.2g<1000> 0.4g<500>, 0.4g<1000> ・ 茎葉処理	継	継) 効果、薬害の確認
	ベントク ラス	適用性 新規	東日本G研 関西G研 新中国G研 西日本G研 (4)	[藻類] ・ 芝生育期 藻類発生期 ・ 0.2, 0.4g<500> ・ 茎葉処理 ・ 対) グエニルターフ 1.0mL<1000>		

A. 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量 g・mL<水量mL>/m ² ・ 処理方法	判 定	判定内容
29. ア・ロジ・アミン肥料粒 ア・ロジ・アミン 0.24% [日産化学工業]	ケンタッキー ブルーグラス	適用性 継続	泉パークウイング グランドイ那須GC36 東日本G研 那須ナセー (4)	[一年生イネ科雑草(東北～九州)] ・ 芝生育期 雑草発生前 ・ 15, 20, 30g ・ 土壌処理	実 ・ 継	実) 従来どおり [春夏作; (コライシバ、ノシバ) 一年生イ ネ科雑草] ・ 芝生育期、雑草発生前 ・ 20～40g/m ² ・ 土壌処理 [春夏作; (コライシバ、ノシバ) 一年生雑 草] ・ 芝生育期、雑草発生前 ・ 30～60g/m ² ・ 土壌処理 注) イネ科雑草の発生の多い場所での 使用は注意する [春夏作; (ケンタッキーブルーグラス; 北海 道) スズメノカタビラ増殖防止] ・ 芝生育期 スズメノカタビラ発生前 ・ 10～20g/m ² ・ 土壌処理 継) ・ 効果、葉害の確認(ケンタッキーブル ーグラス(東北以南)) ・ 低薬量での効果の確認 (コライシバ、ノシバ) ・ 20gの実証試験での確認 (コライシバ、ノシバ) ・ 連用試験での確認 (コライシバ、ノシバ、ケンタッキーブル ーグラス) ・ 倍量薬害試験での確認 (コライシバ、ノシバ、ケンタッキーブル ーグラス)
30. OKUF-001水和 オキサベンコナゾールフルアル酸塩 2.5% マンゼブ 65% [クミイ化学工業]	ベントグ ラス	薬害 自主	東日本G研 (1)	[秋期処理薬害] ・ 藻類生育期 ・ 3g単用, 3g×2回, 3g×3回<500> ・ 土壌処理	実 ・ 継	実) 従来どおり [春夏作; (ベントグラス) 藻類] ・ 芝生育期、藻類発生前 ・ 3g<500mL>/m ² 1～2回 ・ 茎葉処理 継) ・ 年次変動の確認(ベントグラス) ・ 倍量薬害試験での確認 (ベントグラス) ・ 連用薬害試験での確認 (ベントグラス) ・ 実証試験での確認(ベントグラス)

B. 生育調節剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%)	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量 g・mL<水量 mL>/m ² ・ 処理方法	判 定	判定内容
1. KUH-833FH707アル ブ [®] ロヘキサ [®] オンカルシウム塩 25% [クマイ化学工業、理研 グリーン]	ソバ	適用性 新規	東日本G研 新中国G研 西日本G研 (3)	[芽数増加] ・ 芝生育盛期 (5-8月) ・ 0.04, 0.06, 0.08mL<100-200> ・ 茎葉処理	実 ・ 継	実) 従来どおり [(ベントグ [®] ラス、コライシバ) 芽数増加] ・ 芝生育期 ・ 0.04~0.06mL ・ <100~200mL>/m ² ・ 茎葉処理 継) ・ 効果、薬害の確認 (ソバ) ・ 倍量薬害試験での確認 (コライシバ) ・ 連用薬害試験での確認 (コライシバ) ・ 実証試験での確認 (コライシバ)
2. SH-0602液 ヒト [®] ロキシイリキサ [®] ール 16.5%, (水溶性リン酸 18%, 水 溶性加里 20%) [三共アグリ]	ベントグ [®] ラス	作用性 新規	植調研究所 (1)	[ベントグ [®] ラス生育促進] ・ 芝生育期 ・ 250倍, 500倍, 750倍<500> ・ 1回/2週間 計5回 ・ 茎葉処理 (ポット栽培) ・ 対) SH-0602液剤処理量に相当 する好 [®] レ液剤 ・ 対) SH-0602液剤処理量に相当 する肥料成分量	継	継) 効果、薬害の確認
	ベントグ [®] ラス	作用性 新規	太平洋C美野里C (1)	[ベントグ [®] ラス生育促進] ・ 芝生育期 ・ 250倍, 500倍, 750倍<500> ・ 1回/2週間 計5回 ・ 茎葉処理 (慣行栽培) ・ 対) SH-0602液剤処理量に相当 する好 [®] レ液剤 ・ 対) SH-0602液剤処理量に相当 する肥料成分量		
	ベントグ [®] ラス	適用性 新規	東日本G研 関西G研 西日本G研 (3)	[ベントグ [®] ラス生育促進] ・ 芝生育期 (6-8月) ・ 250倍, 500倍<500> ・ 1回/月 計3回 ・ 茎葉処理		
3. SYI-201707アル バ [®] クロブ [®] ラ [®] ール 21.5% [シンジェンタ ジャパン]	ベントグ [®] ラス	作用性 新規	東日本G研 新中国G研 (2)	[連年施用] ・ H19春→H19秋→H20春→H20秋 ・ 芝生育期 スズメノカタビ [®] ラ出穂前 ・ 0.08mL<100-200> ・ 茎葉兼土壌処理	実 ・ 継	実) [春夏作; (ベントグ [®] ラス) スズメノカタ ビ [®] ラ出穂抑制] ・ 芝生育期 ・ スズメノカタビ [®] ラ出穂前 ・ 0.04~0.08mL ・ <100~200mL>/m ² ・ 茎葉兼土壌処理
	ベントグ [®] ラス	適用性 継続	東日本G研 太平洋C美野里C <関西G研> 新中国G研 (4)	[スズメノカタビ [®] ラ出穂抑制、密度低減] ・ 芝生育期 スズメノカタビ [®] ラ出穂前 ・ 0.04, 0.06, 0.08mL<100-200> ・ 茎葉兼土壌処理	継)	継) ・ スズメノカタビ [®] ラ密度軽減効果につい て (ベントグ [®] ラス) ・ 倍量薬害試験での確認 (ベントグ [®] ラス) ・ 連用薬害試験での確認 (ベントグ [®] ラス)